

委員長総括

学校現場においては、食育以外にも取り組む課題はたくさんある中で、今回のつながる食育推進事業を活用し、学校全体で食育に重点をおいて取り組んでいただいたことは貴重な経験になったのではないだろうか。

下松市が全市一体となって取り組む中で、関係機関・団体等との連携は、子どもや保護者にとっては見えづらいものだが、下松市の保健センターの管理栄養士の講話があったり、学校ではない下松市の施設で講演会を行ったりしたことで、市全体がつながった事業であることが伝わったのではないだろうか。

今回の事業では、学校の研究組織や委員会活動などの普段の活動や中国地区小学校特別活動研究大会などのイベントの中に上手く食育を組み込むことで教職員の負担感を軽減しながらも、その基本的な考え方を全職員に定着させることができたと考える。

研究実践では、「歯っぴー・くーねるのびスト」や「3L振り返るカード」、「ペロリンカード」などネーミングの面白さが光り、子どもたちの活動意欲を向上させる工夫がされた取組が多く、コミュニティ・スクールの仕組みを生かした取組や郷土料理の「けんちょう」、「つしま」、甘夏の剥き方指導など、山口県らしさ下松市らしさも十分に表れていた。

事業前の調査結果と事業後の調査結果を比較すると有意差がみられるものが少なかったが、つながる食育推進事業はポピュレーションアプローチであり、今後も継続して子どもや保護者に意識付けを行う方策が必要である。あわせて、食に無関心な子どもや保護者に対しては個別のハイリスクアプローチが必要となってくると考える。

また、目をそらすことのできない課題に「共食」があげられる。最近、「働き方改革」という言葉をよく耳にするが、共食は学校だけの取り組みでは限界があり、市として市内の企業に呼びかけるなど社会全体で取り組むべきことである。保護者が早く帰宅し、子どもとともに夕食を食べるなど、大人の意識の高まりが求められる。

私は、山口県食育推進会議委員も拝命しているので、今回の事業の成果を広く紹介し、山口県の食育の更なる発展に努めたい。

平成31年2月

山口県つながる食育推進委員会
委員長 森 永 八 江